

評価項目	中間評価			
		経過・達成状況	評価	改善方策
1 社会で生き抜く力を身につける	幼稚園部	・友達を誘って遊んだり、自分から友達にかかわろうとしたりする姿が増えてきた。 ・「伝えたい」「話したい」気持ちは更に高まってきている。 ・共通して体験したり、イメージしやすい話題については、友達の話を中心してきいたり、やりとりしたりする姿も見られるようになってきた。 ・話題や伝え方によっては、内容が伝わりにくく、「わかりたい」という気持ちの高まりには、至っていないことも多い。	B	・子ども同士での活動や遊ぶ時間や機会を設定するように努める。 ・わかりやすく話すための支援を工夫する。 ・きき手に注目して、質問されたことに答えることができるよう、楽しみながらきいて答える取り組みを進める。
	小学部	・めあてを提示し、「わかる・できる・たのしい」授業づくりが意識されつつある。 ・話型の活用、めあてを意識した振り返り等について意識した学習が増えている。 ・ICT機器の活用を含めた視覚的支援が意識されてきている。	B	・改めて児童の実態や学習のあり方を確認し、めあての提示、話型の活用、めあてを意識した振り返り、板書の工夫、教室掲示等の改善や工夫をはかる。 ・児童の学習の進度や理解に合わせて、教員同士が連携を深めていくようにする。
	教育研究・自立活動部	・経験したこと、よく知っていることにおいては、積極的に相手と関わり、伝えようとする姿勢が見られる。 ・専門的な知識や指導方法を広めることができているが、実践までにはなかなか至らなかった。	B	・子供自身が自分で操作する等、ICT機器を積極的に使用する場面を増やして、今後も幼児児童の実態に応じた指導支援が行えるよう、学部内だけでなく学部間での情報共有を密にし、日々の実践に生かしていく。 ・引き続き、学部研や研修を活用しながら、一人一授業、全体研究会等で学んだことをもとに、授業改善につなげていく。
	情報教育部	・ICT研修を複数回設定することで、教職員のニーズに合った研修を選んだり、基礎的な知識を身に付けたりして、業務に使えることが増えた。 ・プログラミング教育の場を設定し、後期に実践できるように計画を立てていく。	B	・先生方、ICT支援員、学校SEと情報交換を進め、指導や業務に活用できるよう努める。 ・次年度に役立つように、プログラミング教育の計画、実践を残しておく。
2 こうなりたい自分・夢をもつ	幼稚園部	・併行通園での啓発のための紙芝居をする活動を通し、自分のきこえについて、自分のことばで伝えることができた。 ・毎日の補聴器・人工内耳点検を通して、きこえ方を確認したり、掃除をしたりすることができている。 ・目標やなりたい姿を活動前に相談や確認する場面を作ることを通して、目指す姿に向かってがんばる様子が見られるようになってきた。 ・友達のよいところやがんばりについて、伝え合う場面をあまり設定できていない。	B	・朝の点検活動(補聴器・人工内耳)を充実し、効果的に活用できるよう更に取り組む。 ・学級目標やそれぞれの活動時の目標設定に引き続き取り組み、なりたい姿に向かって努力する活動を積み重ねる。 ・自分や友達の良い所、がんばりを伝え合い、お互いに認め合う場面を、活動の最後や一日の終わりの会等に設定する。
	小学部	・できたことや良かったことを具体的に伝え称賛することで、自分のよかったところを知り、自己肯定感を高めたり、次回への意欲につながったりする様子が見られている。 ・児童が互いの良さを認めることばが日常で多くきかれるようになってきた ・児童が自分の気持ちを、思うようにことばで伝えられないことがあるが、児童なりのことばを受け止めながら、ことばを引き出し、文で伝えられるように確認と対話を繰り返している。	B	・児童が自信を持って活動に取り組めるよう、チャレンジできたことを称賛したり、失敗しても次に生きることを伝えたりすることで前向きな気持ちを育てていく。 ・コミュニケーションを取ったり対話をする時間を増やし、子供たちが話したいことを伝えやすい環境にする。 ・行事等をとおして、友達のいところや気づき、やりとりをする時間を設ける。
	支援部	・話すことにためらう様子は見られなくなってきたが、自分から積極的に伝えようとはしていない。 ・内容や回数を吟味し、場を設定している。少しずつ関わりがつながり、ひろがっている。	B	・教材教具も含めた環境整備とともに、話題づくりをより工夫していく。 ・引き続きニーズを見据えて情報を発信したり場を設定したりする。丁寧な参加の呼びかけをしていく。
	キャリア教育部	・小学部児童を対象とした廊下掲示やキャリア教育だよりを作成した。校内掲示を子ども達が注目するようになってきた。 ・キャリアパスポートを活用して、行事や1学期の振り返りができた。 ・保護者と懇談などで話し合うときの資料提供が、十分にできなかった。	B	・引き続き、子ども達が興味・関心をもてる校内掲示やキャリア教育だよりを作成して、情報発信をする。 ・今までの校内掲示やキャリア教育だよりの資料をファイリングし、保護者との話し合いで活用できるようにする。
	人権教育部	・こども基本法や鳥取県の人権教育、ろう児の権利宣言等を掲示し、情報発信を行った。 ・自己チェックリスト(人権感覚を磨く)の1回目を実施し、人権を大切にする意識を高めた。	B	・自己チェックリスト(人権感覚を磨く)の2回目や人権教育反省アンケートを実施し、定期的に人権尊重の意識を持つ機会を設定する。 ・人権教育参観日では、「子どもの人権について学ぶ～ペアレントトレーニングをしてみよう～」と題した研修会を実施する。
3 あきらめない体力・気力	幼稚園部	・難しさを自覚しながらも、できないとあきらめるのではなく、運動やサッカー教室等で、様々な動きに挑戦しようとしている。 ・こうなりたいという姿を自分の目標に決めて練習する姿が見られるようになってきた。	B	・自信を持って取り組む姿につながるよう、難しくても練習してできた、という経験を積み重ねる。 ・更に次のステップへ進むことができるよう、目標となる姿を自分で決め、子ども自身が意識して振り返り、自己評価をする場面を設定する。
	小学部	・体力づくりでは様々な動きを取り入れ、自分のめあてを持って意欲的に取り組む姿が見られるようになってきた。	B	・活動に入る前に、児童とめあてについて確認する場面を設定する。 ・動画等を活用しながら、自分の動きを客観的に振り返る機会を増やし、めあてに繋げていく。
	健康安全教育部	・休憩時間には、外で鬼ごっこやサッカーなどをして遊ぶ幼児児童が多い。時間の合ったときは、学部をこえて誘い合って遊ぶ様子も見られる。 ・すっきりモーニングを通して、朝ご飯を食べた、夜は何時に寝たなど、自分の生活について意識する発言が見られるようになった。しかし、期間を終えると元の生活に戻ってしまった人が多く、継続には課題がある。	B	・引き続き休憩時間の外遊びが盛んに行われるよう、教師も一緒になって楽しんだり新しい遊びを紹介したりする。 ・後期もすっきりモーニングを実施して生活習慣の改善を意識する期間を設けるとともに、改善した生活が継続できるよう、定期的に家庭への呼びかけをしていく。
の4 推進業務改善		・月2回「帰らぬDAY」を設定するとともに、衛生委員会での振り返りと状況共有、日々の声かけなどを重ねている。5月以降、月45時間を超える時間外勤務者0名が、続いている。 ・分掌を一部改編して担当者を複数配置し、昨年度の実績を踏まえ業務内容の精選を図っている。	B	・学期末、年度末業務に向けて、時間外業務が増えることが予想される。個々の仕事に充てる時間を確保するための工夫をする。(会議時間の短縮・協議内容の焦点化・分掌内業務量の平準化) ・ICTの活用等による業務の効率化を進める。 ・実施後の成果や課題を踏まえ、来年度に向けた検討を早い段階から計画的に進める。